

# 国語科学習指導案

彩和学園 富田林市立小金台小学校

指導者 村山 友浩

## 1. 日時

令和4年 12月1日(木) 第5校時(13:25~14:10)

## 2. 学年・組

第5学年1組(31名)

## 3. 単元名 教材名

物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう「たずねびと」 光村図書・5年

## 4. 単元目標

- ・思考に関わる語句の量を増し、話や文書の中で使うとともに語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うことができる。【知(1)オ】
- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。【思 C(1)オ】
- ・言葉のもつ良さを認識し、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人ひとりの感じ方などに違いがあることに気づこうとしている。【主】

## 5. 指導にあたって

### (1) 教材観

本教材は、広島出身の作者の思いがさまざまな人物や「綾」が会う物の中に生きており、それぞれが「綾」に、そして読者に語りかけてくるように感じられる作品である。子どもたちも、「綾」がそれらさまざまなものとの出会いを通して変わっていく様子を読み取れると考えられる。また、「綾」の心情は、彼女を取り巻くさまざまなものに投影されて、繊細な情景描写として表現されている教材でもあり、今を生きる子どもたちに考えさせたいことが詰まった教材である。

第3次では、「綾」が広島での出会いを通して、思いが変化したように、作品を通して、自分自身の読みや考えの変化したことを自分の言葉でまとめる。登場人物の思いを受け、自分たちの生活や生き方に結びつけ、考えていくことを単元のゴールとしたい。

## (2) 児童観

本学級では、対話から自分の学びにつなげる活動を大事にしてきている。その成果もあり、教材や他者との対話を通して、考えの更新や変容、新たな気づきや疑問など自分の考えや読みを深めようとする児童の学びに向かう姿勢が形と成りだしている。これまで学習した『なまえつけてよ』や『カレーライス』の学習においても、自分の考えをグループや全体交流で伝え合い、自分の言葉で表現する力を伸ばす学習活動に力を入れており、他者の考えと自分の考えとの比較を通して、新たな気づきや学びにつなげ、読みや考えを広げられるようになってきた。

しかし、課題に対する一人ひとりの読みや考えが深まらない現状も見られる。グループや全体での話し合い活動を通して、様々な考え方があることや自分の考えとの違いなど、比較はできるが、それらの意見を自分の考えになかなか結びつけられない児童もいる。個々の考えをより深めるための対話を実現する伝え合う力、自分自身との対話を表現する力に課題を感じている。

## (3) 指導観

### ① 児童の読みや考えを深める対話

本単元では、個々やグループ、学級全体の学びを深める対話をめざしていきたい。『たずねびと』で出会う様々なものを通して「綾」の心情が変化していくこと、そのきっかけになることを中心に、話し合い活動を行っていく。物語に対する思いや考えを伝え合い、「綾」に自分を重ねさせる。そして、一人ひとりの「自分の思い」を見つけ、読み進めていく。また、単元のゴールとして、「綾」心情の変化と重ね、自分自身の読みや考えの変化をまとめる活動を設定している。そのためには、物語全体を関連させながら自分なりに解釈していく力が必要になる。しかし、児童によって、捉え方は異なり、様々な考えをもつと考えられる。そこで、一人ひとりの読みや考え方の相違点や共通点を共有すること同時に、「問い」を対話を深めるための手立てとしたい。より自分の読みを深めるための自分自身の考えに対する問いや他者の考えに対する問いをもつことを意識させる。「なぜ、どうして」という問いをもって、教材、他者、自分自身と対話することで、課題を追究し、読みや考えが深まる話し合い活動としたい。めあてを意識して、話し合いを進めること、考えに対する「ひっかかり」をもつことで学びを広げ、深めることとなると考えるので、自分自身の学びを一步深める対話をめざしていく。

### ② 学びを実感できるふり返し

ふり返し活動を通して児童一人ひとりの学びを伸ばしていくことを大事にする。この単元では、「綾」の心情に寄り添い、自分に置き換えて考えるふり返しをめざしていく。子どもたち一人ひとりの心の中の「綾」が「アヤ」を尋ねていく感覚をもたせ、感じたこと、考えたことを表現することを目標にしている。しかし、自分に置き換えて考えることが難しい児童もいる。そのために、めあてや話し合いのテーマを意識させて授業を進めていきたい。話し合う内容の焦点化は、子どもたちのふり返しに大きく反映される。めあて、テーマを明瞭にすることで、その時間の子どもたちの学びをより確かなものにできると考えられるので、前時の授業のつながりや子どもたちの学びに沿っためあてを設定していきたい。

学び合い活動を通して、自分の考えの変容や新たな気づきを表現する力を伸ばしていく。この単元でも、他者の考えから、自分の考えを更新したり、新たな気づきや疑問をもったりできる子どもたちを育て、一人ひとりが学びを実感できるようにし、自分自身との対話をふり返りで表現する力の育成につなげていきたい。

## 6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識し、登場人物の心情やその場面にあった言葉を選んだり、言葉が表す良さを捉え、語や語句を使ったりしている。(知(1)才)	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことを基盤に、登場人物の思いや作品から感じたことを、自分の考え方や生き方と結びつけ考えている。(思C(1)才)	・粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、めあてに向かう学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

## 7. 単元計画(本時6/7)

時	○学習活動	◇指導上の留意点	・評価規準
1	○学習課題の設定や学習計画の確認をし、『たずねびと』を通して考えていくことの見通しをもつ。 ○『たずねびと』を読み、感想をノートにまとめる。	◇「自分の考えの変化をまとめる」を目標とし、学習の見通しをもたせる。 ◇これまでの学習『なまえつけてよ』や『カレーライス』で登場人物の心情の変化に着目してきたことなどをふり返らせる。	・学習課題を捉え、学習計画を立てようとしている。 【主】 ・どんな場面が描かれているかを考えながら通読し、初発の感想をもっている。 【思・判・表】
2	○登場人物の言動を追い、綾の心情の変化のきっかけを中心にあらすじを捉える。	◇物語の全体像を捉えさせ、学習の見通しをもたせる。 ◇綾の心情の変化を学習の軸とすること、本単元のゴールであることを意識させる。	・心情の変化などを捉えて、人物像や物語などの全体像を想像したり、表現の効果を考えたりしている。 【思・判・表】
3	○綾の広島に行くまでの心情を考え、話し合う。	◇叙述をもとに綾の気持ちを考えさせ、自分の考えをもたせる。	・物語を読んで、変化した自分の気持ちや考えなどについて、自分の考えをまとめている。 【思・判・表】
4	○広島での出会いを通して、綾が感じたことや心情の変化を話し合い、自分の考えをまとめる。	◇人物が出会ったものや人が物語において、どう影響しているのか、心情の変化と関連付けて捉えさせる。	・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【思・判・表】

5	○広島での出会いを通して、綾が感じたことや心情の変化を話し合い、自分の考えをまとめる。	◇人物が出会ったものや人が物語において、どう影響しているのか、心情の変化と関連付けて捉えさせる。	
6 本 時	○綾の心情を読み取り、作品から感じたことをまとめる。	◇叙述をもとに綾の心情を考えさせ、自分の考えをもたせる ◇他者の解釈との共通点や相違点に気づく対話、自分の読みを更新する対話を通して、様々な考えに触れ、考えを深められるようにする。	
7	○作品から感じたことや自分の考えの更新、変容についてまとめる。  ○考えの更新や変容したきっかけについて交流する。	◇自分の考えの変容を中心に感想をまとめさせる。  ◇自他の考えが変容したきっかけを中心に交流させ、自分との共通点や表現の仕方の良さなどに着目させる。	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 【思・判・表】

## 8. 本時の目標

綾の心情の変化を読み取り、作品から感じたことをまとめることができる。

## 9. 本時の判断基準

十分満足できる状況	概ね満足できる状況	努力を要する子どもへの支援
話し合いを通して、綾の心情の変化と作品から感じたことを、自分の生き方に結び付けて、ふり返りで表現できている。	話し合いを通して、作品から感じたこと（登場人物の心情の変容、戦争について思うこと）をふり返りで表現できている。	綾の気持ちを想像させ、作品から感じることを表現させる。